

令和元年5月24日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02677

研究課題名(和文)感情表現の構文パターンと感情の捉え方の認知類型学的実証研究：日韓中英仏独語を対象に

研究課題名(英文) Cognitive and Cross-linguistic Empirical Research on Constructional and Construal Patterns in Expressing Emotions: focusing on six languages

研究代表者

王安(Wang, An)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：70580653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は言語体系が異なる日韓中英仏独の6言語の感情表現について、ソートや検索が可能な実例データベースを構築し、収集された言語事実に基づいて、通言語的かつ体系的に感情表現の意味特徴と用法を考察することを可能にした。データの整理・分析を通して、通言語的な観点から感情表現における先行研究の指摘を検証・修正できただけでなく、感情表現における新たな共通点・相違点及び感情が言語化される際に見られる傾向を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は形態類型学的に異なる6言語の実例からなるデータベースの構築により、従来の作例に基づく分析に比べ、より客観性と説得力を帯びた分析結果を提供できた。このデータベースによって言語事実に基づく感情表現の言語間の比較が可能となり、通言語的・体系的に感情表現の意味特徴と用法を検討することができるようになった。結果として、5言語を中心とする感情表現構文パターンの使用傾向およびそれぞれがどのように感情を概念化しているのかを考察することによって、感情と言語の間の関連性を見出した。

研究成果の概要(英文)： This research examined emotion expressions in six languages, namely, Japanese, Korean, Chinese, English, French and German. We constructed a data base of emotion expressions in parallel corpuses, which made it possible for us to search for and sort them in their contexts, and to make objective generalizations on their semantic characterizations and usage patterns in a cross-linguistic and systematic manner. Through our close examination and analysis of the data, we have successfully, not only verified and corrected the points of previous research on emotion expressions from a cross-linguistic perspective, but also identified some new commonalities and differences in the grammatical behavior of emotion expressions and revealed some tendencies in their conventionalization.

研究分野：言語学、対照言語学、認知言語学

キーワード：認知類型論 実例データベース 感情表現の構文パターン 感情の概念化 認知様式 感情表現の多様性

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題の申請時、従来の研究には主に次の三つの問題点があると考えていた。

- (1) 取り上げられている用例はその殆どが研究者による作例であったために、感情表現の使用実態が反映されておらず、記述と分析は客観性と説得力に欠ける。
- (2) 感情を表す表現は形容詞に限らないにもかかわらず、感情形容詞の意味特徴の解明に偏った研究が多く、各言語において感情が一体どのように捉えられているのかは不明なままであり、体系的な研究と説明が不十分である。
- (3) 感情表現の個別言語研究もしくは2言語間での対照研究は多く行われてきたが、類型論的な観点に立つ通言語的な研究と調査に乏しい。

本研究課題の申請は以上の問題意識から出発し、これらを究明することに動機づけられたものである。

## 2. 研究の目的

人間の基本感情は文化や教育に影響されない普遍的な特徴があるといわれるが、それが実際どのように言語表現に反映されるかを通言語的に問う研究は極めて少ないといつてよい。本研究は、形態類型的に異なる日韓中英仏独語の6言語を対象に、感情表現の構文パターンの相違点・類似点について、実証的調査を通じて明らかにし、感情の概念化における言語間の差異と普遍的傾向を認知類型論的観点から記述することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### 3.1 実例収集とデータベースの構築

6言語のいずれにおいても翻訳版があり、かつ入手可能な村上春樹の作品を10冊選び、「会話文」と「非会話文」とに分けて感情表現の用例を収集し、ソートや検索が可能なデータベースを構築した。また、年代ごとに感情表現の使用が異なる可能性を考慮し、10冊の作品のうち異なる年代から以下の4冊を選び出し、最終的な分析対象とした。

年代	出版年	作品タイトル	本文での省略
1980年～1990年	1982年	『羊をめぐる冒険』	『羊』
1991年～2000年	1992年	『国境の南、太陽の西』	『国』
2001年～2010年	2004年	『アフターダーク』	『ア』
2011年～2017年	2013年	『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』	『色』

以上の4作品における6言語のデータをもとに、構文パターンを分類・整理し、日韓中英独の5言語(以下「5言語」と略す)についてさらに専門家や研究者によって分類の妥当性と構文パターンの適切性を確認した。フランス語については時間が足りず今回の分析対象から外した。

### 3.2 実例に基づく感情表現構文パターンの整理、分析及び通言語的で体系的な記述

構築した上記のデータベースに基づき、日韓中3言語間と英独2言語間の二段階にわけ、感情表現の構文パターン及び相違点と類似点について考察・分析を行った。それによって得られた結果を認知類型論的観点から総括的に類型化し、普遍的傾向と言語間の多様性を記述した。

## 4. 研究成果

### 4.1 6言語からなるソートや検索が可能な実例データベースの構築

このデータベース構築によって、言語事実に基づく感情表現の言語間比較が可能となり、通言語的かつ体系的に感情表現の意味特徴と用法を明らかにするための、より客観性と説得力を帯びたデータを提供できるようになった。また、6言語のデータはすべて「会話文」と「非会話文」

に分けて整理を行ったため、異なる文体が感情表現の意味特徴と用法に与える影響をも観察可能にした。

#### 4.2 先行研究の指摘に対する検証・修正

フランス語を除く 5 言語のデータに対する整理・分析により、感情表現における先行研究の指摘を検証・修正できた。その具体例の一つが、一語文の言語化に関する従来の指摘の修正である。これまでの研究では、日本語は感情形容詞が、一語文の形で主語を明示せずそのまま感情の表出を表せるのに対し、英語や他の言語の場合は基本的に主語が明示される、とされてきた。これに対して、本研究により判明したのは、日本語のみならず英独中韓の 4 言語も、以下の(1)～(6)の例が示すように、主語を明示せず一語文の使用が可能である、ということである。ただし、ドイツ語や英語においては、一語文の使用は「面白い」「おかしい」「可哀そう」などのいわゆる品定め形容詞(寺村 1987)の場合によくみられ、「うれしい」などの感情表出形容詞では少ない(例(6))。このことから、独英両言語は、日本語に比べると一語文を構成できる形容詞に制限があることがわかる。また、中国語においては、感情形容詞はそのままでは一語文を構成できず、一語文として機能させるために、(4)のように感情形容詞の前に副詞「真」の付加が必要である。このように、言語によって表出性を持つ言語形式が異なっており、感情の表出は必ずしも感情形容詞によって実現されるとは限らないことが明らかになった。

なお、言語間における以上のような差異はあるものの、感情の表出に関しては感情主を言語化しない一語文または一語文的な表現の使用が通言語的に観察された。感情の表出は刺激対象に直面した際に起きる「その場その時」のありのままの吐露であるという性質が、言語化される際に、主語や感情対象を言語化しない一語文または一語文的表現となって、各言語に反映していると考えられる。

- (1) 「おかしいなあ」「komisch」『羊』
- (2) 「面白いなあ」「Interesting」『色』
- (3) 「マジ怖い」「Really scary」『羊』
- (4) 「うれしいわ」「真高兴。」『羊』
- (5) 「かわいそうに」「가엾어라(かわいそうに)」『国』
- (6) 「うれしいわ」「Delighted」『国』

#### 4.3 感情の普遍性と言語の多様性における新たな発見

##### 4.3.1 品詞の非対応

Dixon(2004)は感情を表す一連の語について、形容詞で表現されたり、動詞で表現されたり、名詞で表現されたりと、言語によって異なる、と指摘した。本研究の結果でもこの指摘に一致する例が観察された。例えば、日本語の形容詞「楽しい」「羨ましい」に対し、英語ではほとんどの場合「enjoy/Love to」「envy」を用いた動詞文に訳されている。また、ドイツ語では「恐ろしい」「怖い」「うらやましい」などの感情は名詞で表現されることが多く、しかも「haben+感情名詞」のように、ある感情を「持っている」という形で表現している。韓国語でも日本語の「怖い」が「겁이나다(怖さが出る)」という「名詞+動詞表現」になることがある。このように、5言語間には感情語彙における品詞の非対応があることが判明した。

##### 4.3.2 構文パターンにおける使用傾向

動詞述語、形容詞述語を含む二大構文パターンの「会話文」の使用傾向について、日、韓両言語は予測通り、形容詞述語文が動詞述語文に比べて多く使用されている。一方、英語はこれまで指摘されてきた客観的事態把握の傾向が強いという特徴に従い、動詞述語文のほうが多用される

のであろうと予測していた。しかしこの予測に反して、動詞述語文と形容詞述語文はほぼ同じ比率、もしくは形容詞述語文のほうが若干多く用いられていることが分かった。そして、中国語とドイツ語は①ともに動詞述語文が形容詞述語文より多用されており、②他の3言語に比べてともに使役構文または使役的表現が多用されている、という2点で類似性が見られ、予想外の結果となった。なお、中国語の場合は、感情動詞は他の類の動詞に比べ、形容詞的な特徴を帯びており感情形容詞と区別しにくい点を考慮すれば、動詞述語文が多用されているという特徴が明確に捉えられたのはドイツ語のみである、ということになる。

#### 4.3.3 韓国語の場合

韓国語は日本語と類似性の高い言語とされているが、感情表現の使用と構文パターンについては一つははっきりとした違いが確認された。それは、日本語の「のだ」構文が、韓国語では「のだ」なし構文に対応する場合は数多くみられた点である。このことから、韓国語は日本語ほど主観的な捉え(感情の表出)と客観的な捉え(感情の描写)の表現の区別がはっきりしていないことが推測される。

#### 4.3.4 中国語の場合

日本語と異なる点として、中国語では使役構文による感情表現が多用され、しかも「真+<让人~>」のように後半の部分が構文化している点が注目に値する。

(7) 「君に会えて嬉しかったよ。」「见到你真叫人高兴。」『羊』

また、日本語の「楽しそうにV」「うれしそうなN」のような表現における「~そうに/そうに」などの証拠性を示す部分が、中国語ではほとんど訳されず、直接感情形容詞(動詞)に訳されることが確認された。この現象については、王安(2006)が指摘した中国語の感情形容詞が持つ描写機能によって説明できる。つまり、中国語の感情形容詞は日本語より客観性が高く描写機能しか持たないため、「~そうに/~そうな」にあたる意味を既に内包しているのである。

#### 4.3.5 英語の場合

日本語では感情形容詞が名詞節・名詞表現に頻繁に用いられ、間接的に感情主の感情を表す場合があるが、その場合にも英語では感情主を主語とする形容詞述語文が多用されている。すなわち、英語は日本語に比べて、感情は一律に感情主が持つ直接体験として概念化される傾向がみられる、と言える。

(8) 「私もちょうど退屈していた時期だったから、いろいろと教えてやったよ。」

「I was pretty bored at the time, so I told him this and that.」『羊』

#### 4.3.6 ドイツ語の場合

ドイツ語の感情表現は調査した5言語の中で、構文パターンが最も豊富であることが明らかになった。動詞述語文と形容詞述語文の他に、頻繁に観察されたものとして、使役構文(使役的意味合いを持つ表現)、再帰文、受動文などが挙げられる。

##### ① 使役構文(使役的表現)の多用

ドイツ語は感情を表現する際に、中国語よりも更に多く使役表現を用いている。特に次の三種類の使役表現もしくは使役的意味を表す語彙が数多く観察された。すなわち、「machen+N」(ある感情をもたらす)(例(9)(10))、「tun+Adj」(~くする、ある感情を持つようにする)(例(11))、使役的語彙「Freuen~」(~を喜ばせる)(例(12))を用いる他動詞文である。これらは構文パターンが異なるものの、感情主、感情対象、生起する感情の三者関係からみた場合、いずれも感情対

象を主語として据え、感情対象から感情主への働きかけが強調される点で共通している。つまり、三者とも感情は自ずから発生したのではなく、刺激対象による外部原因の影響で引き起こされたものであるという、感情生起の外部要因、感情経験の因果関係を重視するドイツ語の捉え方と発想の産物であると考えられる。

- (9) 「私はたとえ写真だけでもあなたともう一度巡り合えてとても嬉しかった。」  
「Allein dein Bild zu sehen, machte mich froh.」『国』
- (10) 「だから私はいまあなたが話したようなことを聞いていると、とても羨ましいのよ。」  
「Es macht mich fast neidisch, dir zuzuhören.」(それが私を嫉妬させる)『国』
- (11) 「私はただ辛いだけよ、ものすごくつらいだけよ」『国』  
「Es tut mir nur weh. Sehr weh.」(直訳：それが私を悲しくさせる、とても悲しい)
- (12) 「うれしいわ」『羊』  
「Das freut mich aber!」(直訳：そのことは私を喜ばせるわ)

## ② 受動文の使用

日本語の形容詞述語文または自動詞述語文に対し、ドイツ語では状態受動文もしくは動作受動文が用いられている場合がみられた。(13)からわかるように、日独両語いずれも感情主が主語の位置に置かれるのだが、文における意味役割は異なっている。日本語の場合、感情主は単純に感情を経験する人としての役割であり、感情は自ずから生起してくるものとして、感情主・感情対象・生起する感情の三者間の関係には触れない。それに対し、ドイツ語の場合、感情主は受け手であり、外部原因からの働きかけ・影響があつて、ある感情が引き起こされているという、感情主・感情対象・生起する感情の三者関係が言語化されている。先ほどみた使役構文の場合と同様に、受動文を用いることで感情生起の外部要因を強調しているといえるのである。ただし、使役構文が感情を引き起こす対象を主語として感情対象の働きを強調しているのに対し、受動文では感情主を主語に置くことによって受け手であるという意味合いを強調している。

- (13) 「シロが誰かに絞殺されたと聞いたとき、おれは本当に切なかつたし、心から気の毒に思った。」『色』  
「Als ich hörte, dass Shiro erwürgt worden war, war ich zutiefst erschüttert.」  
(直訳：シロが殺されたと聞いた時、私は極めて深くショックを与えられた)

## ③ 再帰文の多用

日本語の形容詞述語文と動詞述語文の両方に対応してしばしば観察されたのが、再帰文である。そして、再帰文が用いられていた全ての用例が、自分の感情・気分に関する報告・説明または質問に対する返答であり、「うれしい！」のようなその場における感情の表出を表す場合には再帰文は使用されていない。このことから、再帰文は「感情の描写」(王安 2006)を表す構文であり、感情経験を客観的に記述するものであることがわかる。ただし、再帰文は状態の変化を表す自動詞や受け身に似たニュアンスを持つため、一般的な動詞述語文に比べてやはり感情主の関わりは弱くなる。

以上の分析を総合すると、以下の二点がいえる。

- I. 5 言語の構文パターンの使用傾向について、日韓は形容詞述語文、中独、特に独語は動詞述語文を多用する傾向にある。また、中独は会話文において使役表現が多用される点でも類似している。一方、英語は動詞述語文と形容詞述語文はほぼ同じ比率、もしくは形容詞述語文のほうが若干多く用いられている。
- II. 感情の捉え方について、日韓は感情が自ずから生起するものとし、中独は感情生起の外部要因を重視し概念化を行っている。英語は使役表現をあまり使用しておらず、感情主を文の主語に据えるデータが多いため、一律に感情主が持つ直接経験とする傾向にある。

## 5. 主な発表論文等

### 【雑誌論文】(計 8 件)

- (1) 王安、上原聡 (2019)「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考えるー性質形容詞とその重ね型を中心にー」『日本認知言語学会論文集』第 19 巻、査読あり、印刷中
- (2) 王安 (2018)「中国語の〈主観性〉の再考察ー使役表出文を例としてー」大橋浩・川瀬義清他(編)『認知言語学研究の広がり』pp. 35-50, 開拓社、査読なし
- (3) 王安 (2018)「感情の普遍性とその言語化ー感情表現の類型論的研究に向けてー」中村芳久教授退職記念論文集刊行会(編)『ことばのパースペクティブ』pp. 35-50, 開拓社、査読なし
- (4) 上原聡 (2018)「日タイ語の聞き手領域への移動を表す「来る」表現に関する一考察」中村芳久教授退職記念論文集刊行会(編)『ことばのパースペクティブ』pp. 14-27, 開拓社、査読なし
- (5) Satoshi Uehara and Kingkarn Thepkanjana (2018) “Internal state predicates in Japanese and Thai” In Prashant Pardeshi and Taro Kageyama (Eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*, 651-676. Mouton De Gruyter. 査読あり
- (6) 王安 (2017)「行為連鎖から見る感情表出の使役文と形容詞文との関連性」『日本認知言語学会論文集』第 17 巻、査読あり、pp. 172-184
- (7) スィリアチャー ロイケオ・上原聡 (2017)「日本語とタイ語の一人称代名詞使用に関する認知言語学的一考察ー出現数の差に注目したケーススタディー」『日本認知言語学会論文集』第 17 巻、査読あり
- (8) 王安 (2016)「感情事象の表現パターンに見る感情の捉え方ー6 言語における調査結果に基づいてー」『日本認知言語学会論文集』第 16 巻、査読あり、pp. 1-13

### 【学会発表】(計 7 件)

- (1) 王安、上原聡 (2018)「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考えるー性質形容詞とその重ね型を中心にー」、日本認知言語学会第 19 回全国大会、2018 年 9 月
- (2) スィリアチャー ロイケオ、上原聡「日タイ語の自称詞使用に関するコーパス分析ー自称詞の種類と subjectivity に注目してー」、関西言語学会第 43 回大会、甲南大学岡本キャンパス、2018 年 6 月
- (3) 王安 (2017)「中国語の〈主観性〉の再考察」、福岡認知言語学会第 37 回大会、2017 年 9 月
- (4) Satoshi Uehara (2017) “The cognitive theory of subjectivity and the invisible speaker in a cross-linguistic perspective: Zero 1st pronouns in English, Thai and Japanese” Japanese Linguistics Symposium (Keynote Speech), University of Sydney, Sydney, Australia, 3/17
- (5) Satoshi Uehara (2017) “Syntactic classification of particles in Japanese and how to teach them” Japanese Language Education Workshop (Invited Talk), University of Sydney, Sydney, Australia, 3/20
- (6) Satoshi Uehara (2017) “The cognitive theory of subjectivity and the invisible speaker in a cross-linguistic perspective: Zero 1st pronouns in English, Thai and Japanese” Linguistics Seminar (Invited Talk), University of Sydney, Sydney, Australia, 3/22
- (7) 王安 (2016)「行為連鎖から見る感情表出の使役文と形容詞文との関連性」、日本認知言語学会第 17 回全国大会、2016 年 9 月

### 【図書】(計 1 件)

- (1) 上原聡 (2016)「ラネカーの subjectivity 理論における「主体性」と「主観性」ー言語類型論の観点からー」中村芳久・上原聡(編)『ラネカーの(間)主観性とその展開』、pp. 53-90, 開拓社

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者：

研究分担者氏名：上原聡                      ローマ字氏名：UEHARA Satoshi  
所属研究機関名：東北大学                      部局名：高度教養教育・学生支援機構  
職名：教授    研究者番号(8桁)：20292352

### (2) 研究協力者

◎研究協力者氏名：藤原祐子                      ローマ字氏名：FUJIWARA Yuko  
◎研究協力者氏名：大藪正彦                      ローマ字氏名：OZONO Masahiko  
◎研究協力者氏名：野澤 督                      ローマ字氏名：NOZAWA Atsushi  
◎研究協力者氏名：野呂 康                      ローマ字氏名：NORO Yasushi  
◎研究協力者氏名：由比俊行                      ローマ字氏名：YUI Toshiyuki  
◎研究協力者氏名：三井麻央                      ローマ字氏名：MITSUI Mao